

# 千話万来

2024年2月315号

株式会社シイビイシー 小玉亜衣

人事教育コンサルタント・産業カウンセラー・生産性賃金管理士

TEL 027-266-6855 FAX 027-266-6856

E-mail [kodama@linxcbc.co.jp](mailto:kodama@linxcbc.co.jp)

〒379-2121 群馬県前橋市小屋原町1082-3

## — 人材成長プロジェクトを行っています —

経営者と管理職11名で行っているマネジメント研究会という研修の中で「人材成長プロジェクト」を行っています。企業のビジョンを実現するための人材像を考え、5年後を目安に計画的に育てて行こうという主旨の人材育成プロジェクトです。

まずは現状の人材レベルの分析を行い、次に五年後の社員人材像を考えます。

そしてそのギャップを埋めるために何をしたらいいのか、必要な課題を考え、5年計画で実践していきます。

何処の企業でも、経営的な話題や、案件の進捗や問題点などの話題、評価、昇進昇格などは話し合うことが必然的にあるかと思われませんが、「社員の人材育成の方向性」について日ごろ話す時間はなかなかないと思います。こういった研究会の場を活用して、それぞれが日々感じている事や、今いる人材の傾向や問題点、育成方法などの意見を出し合いながら経営課題の一つとして策定していきます。どんな分野でもどちらの方向に進むのか方向性をしっかり定め、ベクトルの方向を合わせて取り組んで行くことが必要なのです。

## — 経営方針を考えるうえで大切な事 —

売上とはどこから発生してくるものでしょう？売上とはまさに「顧客満足の結果」なのです。

中期経営計画は顧客満足を得るための実行計画、

ビジョンは「3~5年後のなりたい姿」、

戦略は「3~5年後の重点実施事項」と「資源配分のあり方（どこに力：人材と時間の投資：を入れて取り組むのか）」

こうして考えられた戦略をもとに、各部署が3~5年かけて取り組む職場のミッション、自部署が貢献すべき事を考えて行きます。

事業戦略を考えて行く際に大事なことは、①環境の変化を予測すること、環境変化によりビジネスチャンスが生まれたり、脅威になったりもします。

②競合に負けないために「わが社の強み」を育てていくこと「差別化できる強み」を持つことで、事業は優勢に運営でき、安定した経営にもつながります。

③働く人の「事業に対する思い入れ」を具現化することも大事です。働く人の意欲の源泉にもなります。

取り組むべき職場のミッションとして忘れてはならないのは「お客様への貢献」と「適正利益の確保」にバランスよく取り組むこと。どちらかに偏ることが無いよう気をつけましょう。

## — 自部署の具体的役割は何か（貢献領域を考える） —

今年度自部署で取り組むべきこと（貢献領域）を一覧表にしておく。

貢献領域としては、戦略的業務、日常的な必達業務、その他の業務の3つに分けて洗い出す。

戦略的業務とは経営戦略から落とし込まれた今期にやるべき業務の明確化。戦略的業務には将来に対する種まきの仕事もあるが、種をまいておかなければ芽も出ないし刈り取ることも出来ない。常に地道に種をまき続けることが極めて重要なのです。

日常的業務は日々行われている業務を遂行することに加え、コストダウンであったり、売り上げ目標であったり、制度改正に伴う業務であったり、拒否が許されない必達業務も含まれます。こうした日々の運用業務も戦略と並ぶ重要な職場の役割責任業務です。

その他の業務としては、部門目標とは直接連動しないが、自部署のミッションとして考えるとやるべき業務、仕事の流れや他部署との情報共有の必要性などを考えると取り組むべき業務などです。自部署は具体的にどんなことを行う、または出来るようになる役割があるのか、企業の運営に貢献すべきことは何なのか、はっきりさせて部署内で共有しておく、取り組んでいる事の必要性や納得感が増し、社員の貢献意欲や協力姿勢も増してきます。

部門目標をさらに落とし込み、自部署で今期取り組むべきことを明確にしておきましょう。

## — 仕事上のコミュニケーションを求める —

自分の担当業務、担当作業だけをしていれば問題ないと思っている人が意外に多く存在しています。ただそれぞれの業務だけを行っていたら、一つ一つが断片的になってしまい、仕事として機能しません。情報の伝達も遅くなり、業務が不効率になったり、ミスに繋がったりする可能性もあります。仕事にはコミュニケーションが絶対的に必要なのです。

仕事上のコミュニケーションにも出来ているレベルがあります。

1. こちらから確認しないと、業務上必要な情報共有が出来ない
2. 業務上必要な報連相が出来ていないことがある（不足がある）
3. 業務上必要な報連相を必ず行えている
4. 仕事の流れが良くなったり、ミスの予防に繋がったりするような報連相を常に意識したコミュニケーションを取っている。取るよう努力している
5. 仕事の流れが良くなったり、ミスの予防に繋がったりするような報連相を常に意識し、実践し効果が出ている

簡単に分けても5つのレベルに分けることが出来ます。皆さんの周りの人材はいかがでしょうか？

仕事にはコミュニケーション（報連相）がつきものであること。

作業だけでは仕事にならないこと。

コミュニケーションの取り方次第で仕事の質が上がり、成果につながりやすくなり、ミスが起こりにくくなるということ。

コミュニケーションを取ることも仕事の内であり、上達させるべき、身に着けるべき技術だということを社員に周知して、教育していきましょう。皆さん自身はコミュニケーションが取れていますか？